ISSN 0914-1057

龍谷大学

佛教学研究室年報

第11号

平成13年3月

巻頭言

龍谷仏教学会　会長　神子上　惠生

この『佛教学研究室年報』は、本学大学院の仏教学専攻の学生が主体となって、自主的に出版を続けてきた学術雑誌である。その『佛教学研究室年報』の刊行が、ここに一一号を迎えたことを、関係諸氏と共に慶びたい。

さて、二一世紀を迎えた今日、我が国の学問は、自然科学、人文科学を問わず、大きな危機を迎えていると言える。社会との関わりの中で、学問のあり方を再構築しなければならない時期に来ているからである。思えば仏教は、様々な地域や社会において、人々の心を支え、生の根幹となってきた。仏教を学ぶということは、かかる生きた教えを学ぶことに他ならない。仏教学の精髄は、「学仏大悲心」にあると信じてやまない。

本号には、四本の論文と一本の翻訳研究が掲載されることになった。論文を執筆した五名の学的向上心を是としつつ、今後一層の努力研鑽に励まれんことを望みながら巻頭の言葉にかえたいと思う。

平成一三（二〇〇一）年三月

龍谷大学
佛教学研究室年報

第１１号

目次

・巻頭言

・『観薬王薬上二菩薩経』と関連経典 ---------- 井上　博文　1

・臥坐具犍度について
—精舎奉納の因縁譚を中心として— ---------- 岩田　朋子　25

・瑜伽行派における衆同分 ---------- 櫻井　良彦　53

・大正期における仏教社会事業論について ---------- 長崎　陽子　76

・彙報 ---------- 88

・法雲の『法華義記』における一乗解釈 ---------- 早川　貴司　1

院生会会員研究発表題目

１９９７年度院生会会員研究発表題目

《日本印度学仏教学会　第４８回学術大会》

６月２１日・２２日　於　大谷大学

・岡本　健資　*Aśokāvadāna* における布施について
・長崎　陽子　*Mahāyānasūtrālamkāra* における悲について
・小山　昌純　『横川首楞厳院二十五三昧式』流布本の疑義について

《修士論文中間発表会》

１０月２３日　於　大宮学舎北黌２０３教室

・香川　正修　中国における『観無量寿経』解釈の研究
・李　　胤沃　世親唯識における識転変説の研究
・前田　幸子　唯識思想における末那識説の研究
・佐長　道亮　唯識説における四分論の研究
・中山　正見　日本浄土教における善導教学の受容と展開

１０月２４日　於　大宮学舎北黌２０２教室

・兼頭　美江　仏陀の呼称に関する一考察
　　—特にナーガをめぐる問題を中心にして—
・西野　　健　高昌国における護国思想の研究
　—トルファン出土漢文『仏説仁王護国般若波羅蜜多経』断片資料をもとに—
・那須真裕美　Bhāviveka の二諦説の研究
・林　　美希　インド仏教における信の研究

１９９８年度院生会会員研究発表題目

《日本印度学仏教学会　第４９回学術大会》

９月５日・６日　於　鶴見大学

・那須真裕美　Bhāvivekaの二諦説について
・井上　　陽　*navakarmika*と呼ばれた出家者
・岡本　健資　*Divyaāvadāna*のおけるアショーカ王の布施と誓願について
・多田　　修　円成実性の有為・無為をめぐる問題考
　　— 慈恩基の著作を通して —
・小山　昌純　『観音玄義』の教判について
　　—『法華玄義』教相段との比較を通して—

《日本仏教社会福祉学会　第二十三回学術大会》

９月１３日　於　立正大学

・長崎　陽子　仏教社会福祉の主体契機について

《修士論文中間発表会》

１０月１９日　於　南黌２０４教室

・井上　博文　パーリ『涅槃経』における諸問題
・岸本　正義　大乗仏教における福田思想の研究

１０月２２日　於　南黌２０４教室

・山田　陽道　『観経疏妙宗鈔』における念観思想の研究
・篠原　厚子　空海における三大円融思想の研究
・孫　　儷茗　唯識三十頌における修行階梯としての五道説の研究

１０月２３日　於　南黌２０４教室

・櫻井　良彦　Dharmakīrtiの Svabhāvahetu と Apoha 論の研究
・佐長　道亮　唯識説における四分義の研究
・江坂　信幸　五重唯識観の研究

《密教図像学会　第１８回学術研究発表会》

１２月５日　於　金澤文庫

・井上　　陽　カーピシー出土仏像に見られる焔肩の意味

《平成１０年度　龍谷仏教学会学術研究発表会》

１２月１５日　於　大宮学舎西黌大会議室

・長崎　陽子　戒賢『仏地経註』における四無量心について

１９９９年度院生会会員研究発表題目

《日本印度学仏教学会　第５０回学術大会》

９月９日・１０日　於　龍谷大学

・井上　博文　ブッダの般涅槃について
・櫻井　良彦　ダルマキールティの概念論
・孫　　儷茗　安慧釈における『唯識三十頌』の最後の五頌と五道との対応
・那須真裕美　チャンドラキールティの vyavahāra
・井上　　陽　仏塔に関わった出家者
・岡本　健資　アヴァダーナ文献における授記
・香川　真二　『郁伽長者所問経』における五戒
・多田　　修　唯識説における三性と五事との関係
・中塚　浩子　密教における金剛薩埵について

《日本仏教社会福祉学会　第３４回学術大会》

九月十二日　於　淑徳大学

長崎　陽子　大乗仏典よりみた仏教福祉的援助関係

《修士論文中間発表会》

１０月１９日　於　北鬟２０３教室

・伊藤　建成　法称における「為他比量」論の研究
・佐々木紀彦　慈恩基における『法華経』解釈の研究
・高橋　史佳　弥勒下生経における浄土観の研究
・磯邊　友美　ネパール仏教におけるヴァジュラーチャーリヤの研究
　　―出家者不在の仏教について―
・早川　貴司　法雲の『法華義記』の研究

１０月２１日　於　北鬟２０４教室

・今井　光信　般若経における菩薩行の研究
　　―特に不退転を中心にして―

・大関　康史　人格主体 (pudgala) を巡る論争
・中島　憲雄　阿毘達磨論書における十二縁起説の教理と変遷
・管　　知尚　僧肇の空思想をめぐる諸問題

１０月２２日　於　北鬘２０３教室

・文谷　将敬　『華厳経』における蓮華蔵世界の研究
・岩田　朋子　仏教文献に見られる出家者の住処
・閔　　炳南　ダルマキールティにおける直接知覚理論の研究
・種村　元智　唯識説における種子熏習論の研究

《平成１１年度龍谷仏教学会学術研究発表会》

１２月１５日　於　西鬘大会議室

・井上　博文　ニカーヤに説かれるマーラ

２０００年度院生会会員研究発表題目

《パーリ学仏教文化学会第１４回学術大会》

５月２７日　於　花園大学

・岡本　健資　チベット訳クナーラ王子の物語について
・井上　博文　パーリ『涅槃経』に説かれるマーラ

《北陸宗教文化学会第７回学術大会》

７月８日　於　兼六荘

・井上　　陽　ヴィディシャー周辺のストゥーパ遺跡について

《日本印度学仏教学会第５１回学術大会》

９月２日・３日　於　東洋大学白山キャンパス

・岩田　朋子　出家者の住処としての洞窟
・井上　博文　パーリ『涅槃経』と第一結集の関係
・櫻井　良彦　衆同分について
・孫　　儷茗　『順正理論』における四諦説の研究
・山田　陽道　『観経疏妙宗鈔』における「約心観仏」・「即心念仏」の語義について
・那須真裕美　Bhāvivekaと Jñānagarbhaの二諦説の関連について
・岡本　健資　チベット訳クナーラ物語
— *ku-na-la'i rtogs-pa brjod-pa* —
・多田　　修　唯識種姓説における不定種姓の問題
・中塚　浩子　「理趣広経」における金剛薩埵について

《修士論文中間発表会》

１０月１９日　於　東黌２０４教室

・坂東　顕乗　原始仏教における解脱の研究
・文谷　将敬　『金剛碑論』撰述再考—澄観教学との比較において—
・伊藤　嘉浩　ブッダゴーサのsamādhi解釈

・森下　知美　飛鉢の研究
・山方　琴美　敦煌における在家者の仏教
・小池　清廉　仏教倫理から見た自殺、安楽死、尊厳死問題
—阿含、ニカーヤ、律を中心に—

１０月２４日　於　東黌３０６教室

・網干　泰弘　『法苑義林章』における四食論の研究
・北塔愛美子　『融通圓門章』における往生思想の研究
・中山　　亮　道綽の浄土教思想の研究
・洪　　櫻娟　四明知礼の念仏思想の研究
・安間　明頼　浄土経典における本願思想の研究
—漢訳『平等覚経』・『大阿弥陀経』を中心にして—
・今井　光信　般若経における四行位の研究

《平成１２年度龍谷仏教学会学術研究発表会》

１２月１９日　於　龍谷大学大宮学舎 西黌大会議室

・井上　博文　薬王菩薩をめぐる問題
・櫻井　良彦　abhinnā sabhāgatā と bhinnā sabhāgatā

院生会会員発表論文

１９９７年度院生会会員発表論文

・岡本　健資　「*Aśokāvadāna* における布施について」
『印度学仏教学研究』第４６巻第２号 １９９８年３月

・長崎　陽子　「*Mahāyānasūtrālaṃkāra* における悲について」
『印度学仏教学研究』第４６巻第２号 １９９８年３月

・小山　昌純　「『横川首楞厳院二十五三昧式』流布本の疑義について」
『印度学仏教学研究』第４６巻第２号 １９９８年３月

１９９８年度院生会会員発表論文

・中塚　浩子　「『一切悪趣清浄経』の説相と金剛薩埵」
『龍谷大学大学院研究紀要』第２０号 １９９９年１月
「『一切悪趣清浄経』の註釈に見る金剛薩埵」
『仏教学研究』第５５号 １９９９年３月

・井上　　陽　「*navakarmika* と呼ばれた出家者」
『印度学仏教学研究』第４７巻第２号 １９９９年３月

・岡本　健資　「アショーカ王の布施」
『龍谷大学大学院研究紀要』第２０号 １９９９年１月
「*Divyāvadāna* におけるアショーカ王の布施と誓願について」
『印度学仏教学研究』第４７巻２号 １９９９年３月

・多田　　修　「円成実性の有為・無為をめぐる問題考 —慈恩基の著作を通して—」『印度学仏教学研究』第４７巻第２号 １９９９年３月

・那須真裕美　「Bhāvivekaの二諦説について」
『印度学仏教学研究』第４７巻第２号 １９９９年３月
「中期中観派の二諦説

—勝義へ志向させる方法論を中心に—」
『仏教学研究』第５５号、１９９９年３月

１９９９年度院生会会員発表論文

・中塚　浩子　「『理趣広経』における金剛薩埵について」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号 ２０００年３月

・井上　　陽　「仏塔建立に関わった比丘・比丘尼」
『龍谷大学大学院研究紀要』第２１号 １９９９年１２月
「カーピシー出土仏像にみられる焔肩の意味」
『密教図像』第１８号 １９９９年１２月
「仏塔に関わった出家者」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号 ２０００年３月)

・岡本　健資　「クナーラ王子の物語
— *ku-na-la'i rtogs-pa brjod-pa* 試訳 (1) —」
『インド学チベット学研究』第４号 １９９９年１０月
「アヴァダーナ文献における授記」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号、２０００年３月

・香川　真二　「『郁伽長者所問経』における五戒」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号、２０００年３月

・多田　　修　「唯識説における三性と五事との関係」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号、２０００年３月

・那須真裕美　「*Prajñāpradīpa-ṭīkā* 第 24 章の試訳」
『龍谷大学大学院研究紀要』第２１号 １９９９年１２月
「チャンドラキールティの vyavahāra」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号 ２０００年３月

・井上　博文　「ブッダの般涅槃について」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号、２０００年３月

・櫻井　良彦　「ダルマキールティの概念論」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号 ２０００年３月

・孫　　儷茗　「安慧釈における『唯識三十頌』の最後の五頌と五道の対応」
『印度学仏教学研究』第４８巻第２号 ２０００年３月

２０００年度院生会会員発表論文

・中塚　浩子　「「理趣広経」における金剛薩埵について」
『印度学仏教学研究』第４９巻第１号 ２０００年１２月

・井上　　陽　「ヴィディシャー周辺のストゥーパ遺跡について」
『北陸宗教文化』第１３号 ２００１年３月

・岡本　健資　「チベット訳クナーラ王子の物語について」
『パーリ学仏教文化学』第１４号 ２０００年１２月
「チベット訳クナーラ物語— *ku-na-la'i rtogs-pa brjod-pa* —」
『印度学仏教学研究』第４９巻第２号 ２００１年３月

・多田　　修　「唯識三性説における五事との関係考」
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第２２集２０００年１２月
「唯識種姓説における不定種姓の問題」
『印度学仏教学研究』第４９巻第２号 ２００１年３月

・那須真裕美　「*Prajñāpradīpa-ṭīkā* 第 24 章の試訳 (2)」
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第２２集２０００年１２月
「Bhāviveka と Jñānagarbha の二諦説の関連について」
『印度学仏教学研究』第４９巻第１号 ２０００年１２月

・井上　博文　「パーリ『涅槃経』に説かれるマーラ」
『パーリ学仏教文化学』第１４号 ２０００年１２月
「パーリ『涅槃経』と第一結集の関係」
『印度学仏教学研究』第４９巻第１号 ２０００年１２月

・櫻井　良彦　「Dharmakīrti, Śākyabuddhi, Śāntarakṣita の Apoha 論」
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第２２集２０００年１２月
「衆同分について」
『印度学仏教学研究』第４９巻第１号 ２０００年１２月

・孫　　儷茗　「原始仏教における四諦説の研究—集諦を中心として—」
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第２２集２０００年１２月
「『順正理論』における四諦説の研究」
『印度学仏教学研究』第４９巻第１号 ２０００年１２月

・山田　陽道　「『観経疏妙宗鈔』における「約心観仏」・「即心念仏」の語義について」『印度学仏教学研究』第４９巻第１号 ２０００年１２月

・岩田　朋子　「出家者の住処としての洞窟」
『印度学仏教学研究』第４９巻第１号 ２０００年１２月

編集後記

『龍谷大学 佛教学研究室年報』第１１号が漸く完成いたしました。本誌は、龍谷大学において仏教学を専攻する大学院生がどの様な研究活動をおこなっているのかを広く学内外に知っていただくと共に、大学院生、並びに研究生に研究発表の場を提供しようという趣旨の下に発刊しております。しかしながら本誌は、発刊にかかる経費のほとんどを、大学院生からの年会費に依存しておりますので、毎年継続的に発刊できる保証はありません。その為、第１１号の発刊が、」前１０号から数えて４年の間が開いてしまいました。さらに本誌の刊行は、2001 年 3 月 31 日の予定でしたが、諸般の事情により大幅に遅れてしまいました。しかしながら、発刊の日付は 2001 年 3 月 31 日とさせていただきます。発刊が遅延しましたことを、関係者の方々、及び執筆者の方々にお詫び申し上げます。

今回、久々の発刊に際し、第１０号発刊時の編集委員でありました長崎陽子先生 (本学非常勤講師) にも原稿の執筆を御願い致しました。ご多忙の中、執筆を快諾下さいましたことに感謝の念を表します。

(櫻井記)

龍谷大学佛教学研究室年報　第１１号
2001 年 3 月 31 日発行
編集者　龍谷大学佛教学研究室年報編集委員会
櫻井　良彦 (D2)　　近藤　博之 (M1)
印刷所　謹文堂印刷
発行所　龍谷大学仏教学研究室
〒 600-8268　京都市下京区七条大宮
075-343-3311 (代表)

BULLETIN OF BUDDHIST STUDIES
RYUKOKU UNIVERSITY

No. 11

CONTENTS

- Sūtra Spoken by the Buddha on the Contemplation of the Two Bodhisattvas, King of Healing and Supreme Healer and relationship — Translation into Japanese and annotation — (Hirohumi INOUE) 1
- On the fate of offering of *vihāra* in the *Śayanāsanavastu* (Tomoko IWATA) 25
- *Nikayasabhaga* in Yogacara (Yoshihiko SAKURAI) 53
- On the Theory of Buddhist Social Work *Taishō Period* (Yoko NAGASAKI) 76
- The Interpretation of Concept of the One Vehicle Offered in the Fa-Yün's *Fa-hua i-chi* (Takashi HAYAKAWA) 1
- Foreword

龍谷大学仏教学院生会会則

第一章　総　則

第一条　本会は、龍谷大学仏教学院生会と称する。

第二条　本会は、院生の自治を基本として、学問の自由を擁護し、龍谷大学仏教学大学院生の研究活動の向上に努め、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第三条　本会は、執行部を京都市下京区七条大宮龍谷大学仏教学研究室内に置く。

第二章　会　員

第四条　本会は、次の会員を以て構成する。

一、正会員　龍谷大学大学院仏教学専攻に在籍するもの。

二、準会員　本会の主旨に賛同し、特に本会に認められたもの。

第三章　総　会

第五条　総会は、本会の最高議決機関である。

第六条　総会は、本会の正会員をもって構成する。

第七条　総会は、正会員の三分の一以上の参加をもって開催することができる。

第八条　総会は、会長がこれを招集し、次の場合に開催される。

一、定期総会（毎年四月）

二、会長が必要と認めた場合。

三、正会員の五分の一以上の連署による要求のあった場合。

第九条　総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

第四章　執行部役員

第十条　本会は、次の役員をおく。

一、①会長一名 ②副会長一名 ③会計一名 ④渉外一名 ⑤書記一名 ⑥会計監査一名 ⑦文学部院生協議会代表委員二名

二、ただし、①、③以外の兼任はこれを妨げない。

第十一条　会長は、会員の推薦により総会の承認を得る。又、役員は、総会において正会員より選出する。

第十二条　会長は、本会を代表し、執行部は統括する。

第十三条　役員の任期は一年とし、重任は妨げない。

第五章　事　業

第十四条　本会は第二条の目的を達成する為、次の事業を行う。

一、研究発表会、講演会等の開催並びにその援助。

二、出版物の刊行。

三、会員親睦に関する事業。

第十五条　第十四条一、二、の事業に関しては次のとおりに行う。

一、原則として正会員は、年一度研究発表をすることを前提とし、その発表の場として定例研究発表会を行うものとする。

二、研究発表に関しては、次のとおりに行う。

イ、修士課程（以下Mと略す）一年は、一年間を発表猶予期間とみなし、翌年度初頭における研究経過報告会にて発表を行うものとする。

ロ、M二年以上は、修士論文提出前に行う中間発表をもって、これにかえることができる。但し、該当年度の論文提出を行わないものも、研究経過の発表をもってこれにかえることができる。

ハ、博士後期過程（以下Dと略す）は、何等かの研究雑誌に活字化された論文の発表を行う。

ニ、但し、D一年は、修士論文要約（『大学院紀要』に掲載分）をもってこれにかえることができる。

三、第十四条二の内、年一回は、研究雑誌の発刊を行うものとする。又、発刊に際しては、編集委員会を置き、本会執行部役員をもってこれを構成する。

イ、編集委員の内、編集委員長一名を互選し、委員を統括するものとする。

ロ、但し、編集委員会が必要と認めた場合、若干名の委員を、正会員より委員長が任命することができる。

第六章　会　計

第十六条　本会の会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十七条　本会の経費は、還元金、会費、寄付金、および その他の収入による。

正会員会費　年額　三、〇〇〇円

準会員会費　年額　一、〇〇〇円

第十八条　本会の決算報告は、監査委員の監査をうけた後、執行部が決算報告書を総会に提出し、その承認を得なければならない。

付　則

一、本会則は、総会の決議により変更することができる。

二、本会則は、昭和六十年四月一日施行（平成三年五月一日一部変更）の龍谷大学仏教学院生会会則の一部を変更し、平成六年四月十八日より施行する。

ISSN 0914-1057

BULLETIN OF BUDDHIST STUDIES

RYUKOKU UNIVERSITY

No. 11

March, 2001